



裏パン

渴き。

無料版

Freak! vol.1
CINEMA REVIEWERS

裏パンフとはなんぞや？

かつて映画はテキストにまみれていた。

映画レビューというものが、作品を斜めから揶揄するものでも、ちょうちんかざして持ち上げるものでも、ましてや作品を吐き捨てるものでもなかった頃、映画とテキストは共にあった。

そこには独立した映画作品と、その作品と向き合う独立したテキストが蜜月の関係を保っていた。

畑中佳樹が、嫉妬混じりに万感の思いを綴った評なしに『E.T.』を思い出すことが出来ない。井筒和幸は、宇田川幸洋という真の理解者だけには頭が上がらない。

犬猿の仲といわれたポーリン・ケイルとイーストウッドのいがみ合いも、傍から見れば、手に汗握る映画的興奮だ。

賛／否なんてどうだって。真正面に向き合ってさえいればいい。

そんな映画とテキストの素敵な関係を、ふたたび取り持ちたい。

映画にまつわる本物のテキストがめっきり減ってしまった今もなお、映画にもっとも身近なテキストといえばパンフレット（劇場プログラム）。ヨーロッパに発祥し、日本で進化したといわれる素晴らしい文化。

でも、一方で、誰にも気兼ねすることのない、オルタナティブなテキストも読んでみたい。

そんなわけで『裏パンフ』。

強い想いが根を張って、草の根的に自生したこの真新しい媒体に、真新しいテキスト

を埋め込んでいきたい。

誰にもおもねることのない、目の前の映画
と自分の人生だけに、愚直なままでに向き
合った正直なテキストを。

Freak!一同

おことわり

裏パンフは映画の宣伝を第一の目的としていないため、ときに映画を辛らつに批評することもございます。悪評にご気分を害されることもあろうかと思いますが、映画の見方はひとそれぞれ。**寛容な気持ち**でお楽しみいただければと思います。

尚、裏パンフの企画についてはあらかじめ配給会社に通達しておりますが、100%ガチという性質上、中には苛烈な表現で映画をボロクソにこき下ろすなど、配給会社の意図にそぐわない内容も登場するゆえ、**一切の素材提供を辞退**しております。したがって、主に文字のみでの構成となることをご了承ください。

目次

1. 裏パンフとはなんぞや？	……	1
2. 映画「渴き。」とは？	……	7
3. 渴き。レビュー		
Rv1. 村山章（映画ライター）	……	13
Rv2. 長内那由多（劇作家）	……	19
Rv3. 服部香穂里（映画ライター）	……	24
Rv4. 島田映子（映画ライター）	……	29
Rv5. 田中啓一（Freak!編集）	……	34
Rv6. 茅野布美恵（編集者）	……	42
Rv7. 芳賀健（映画ライター・編集）	……	47
Rv8. 清水節（映画評論家）	……	55
4. レビュー総括	……	61
5. 中島映画クロスレビュー	……	72
<特別付録 1>		
[徹底分析] 原作からの脚色を 分析すると見えてくる、 中島哲也の真意とは？	……	78
6. 編集後記	……	107
<特別付録 2>		
過去のFreak!コンテンツ	……	111

というわけで、初回でコケたらおなぐさみ。
一気呵成に気合だけで作った『裏パンフ』
第1弾は『**渴き。**』

コアなファンとコアなアンチを併せ持ち、
作品ごとに物議を醸す中島哲也監督
10年目の最新作。

そんなイキのいい作品なら、こけら落としに
うってつけ!というわけで、試写会上がりの
レビュアーたちをさっそく直撃して、
この作品に思う所をぶつけてもらいました。

賛否上等!

騒いではしゃいで盛り上がれば、
この映画も喜んでくれることでしょう!

映画

「渴き。」

とは？

あらすじ

元刑事のイカレタ男、藤島の家庭はすっかり崩壊していた。妻子と住んでいたマンションを追い出された藤島は身を持ち崩し、警備会社の夜回りの仕事になんとかありついている。そんなとき、絶縁状態にあった妻から電話が入る。色めき立つ藤島。聞けば、ひとり娘の加奈子が失踪したという。娘をオレの手で探し出すこと。それが家庭を、そして自分を取り戻す唯一の手段だと直感した藤島は、なりふり構わず加奈子を探しはじめる。捜索を進めるうちに、警察、ギャング、ヤクザまでもが血眼になって加奈子を探していることを知る。次第に明るみになる加奈子の本性。なんなんだ！オレの娘は一体何者だ？

三年前の加奈子の中学生生活と失踪した現在パートが平行に進むサスペンス。俊英、深町秋生のバイオレンス小説を『下妻物語』『告白』などの気鋭、中島哲也が映画化。豪華キャストがあんな役を！驚きの配役に早くも業界騒然。公開前から物議を醸す“劇薬”ムービー。

スタッフ

監督 - 中島哲也

脚本 - 中島哲也、門間宣裕、唯野未歩子

原作 - 深町秋生『果てしなき渴き』

音楽 - GRAND FUNK ink.

作品データ

製作年 - 2014年

製作国 - 日本

配給 - ギャガ

上映時間 - 118分

映倫区分 - R15+

キャスト

藤島昭和	-	役所広司
加奈子	-	小松菜奈
ボク	-	清水尋也
浅井	-	妻夫木聡
愛川	-	オダギリジョー
松永泰博	-	高杉真宙
遠藤	-	二階堂ふみ
森下	-	橋本愛
長野	-	森川葵
桐子	-	黒沢あすか
咲山	-	青木崇高
辻村	-	國村隼
緒方	-	葉山奨之
東	-	中谷美紀



さあいよいよです。

『渴き。』裏パンフの激ホンネレビューは
次ページから、威勢よくリリース!

トラッシュポップという名の 危険な娯楽



村山章(映画ライター)

トラッシュをどこまでポップに見せられるか。中島哲也監督が挑んでいるのは、要するにそういうことではないか。悪趣味スレスレの、ではなく、敢えて一線を越えた悪趣味を、徹底的にポップさで包んでみせる。こんな言葉は存在しないが、勝手に“トラッシュポップ”なるジャンル名を捧げたくなる。

最新作『渴き。』についてだけではない。どの中島作品を観ても、ものの10秒で伝わってくるのは、演出のボルテージが常に高いこと。言い換えるならラウドなわかりやすさだ。過剰な映像、過剰な編集、過剰な音楽。そこはかたなく読み取ってくださいなどという奥ゆかしさはハナから捨てている。

誰にもわからないなんて言わせねえ！監督に襟ぐりを掴まれて、これでもか、これでもかと便器に顔を押し付けられるような。しかしその便器はキレイにデコレートされピカピカに磨き上げられ、押し付けられてる側は便器だとさえ感じない、そんな恐るべきやり口こそが、中島監督の確信犯的な狙いなのではないのか。

『渴き。』も始まってすぐに中島監督の揺さぶり攻撃にさらされる。クリスマスイブの街角。待ち合わせする恋人たちや、遊びに繰り出す若者たち。うわついた会話からにじみ出る軽薄さ。聖なる十字架と大仰な賛美歌風の音楽が、一見幸せな景色に皮肉の絵の具を塗りたい、役所広司のインサートカットが「クソが！」と憤怒と悪意をまき散らす。

なんてわかりやすいんだ。なんて陳腐なんだと辟易するひとは、ぶっちゃけ中島作品のターゲットではないのだと思う。陳腐なんて百も承知。でも陳腐こそが多くの人々が求めているポップネスであり、下世話な欲求こそが大衆娯楽の本質なのではないかと中島監督は挑発する。そしてめまぐるし

いカット割りやアニメの導入といったこれまた“ポップ”な目眩ましを駆使しながら、クソみたいな人間たちのクソみたいな物語に「さあ、どこまでついてこれるかな？」と挑発してみせるのだ。

「カッコいい！」「クール！」という表層的な感想に誘導しつつ、水面下でうごめく圧倒的な悪意。中島監督は、さあ、わかるだろう、オレと共犯者になろうぜと誘っている。これは映画なんだから、一緒に悪いイタズラを楽しもうぜと。いや、誰もついてこないだろうと思いながら観客を試しているのかも知れない。

重ねていうが、中島作品には品がない。それはもう意識的に圧倒的に品がない。そ

の上で監督の暗い遊びにとことん付き合うのか、こんなクソな世の中だからこそゴミ溜めに咲く一輪の花を探す方がマシだと考えるかは自分次第。アナタの中の「渴き」を癒やすのが悪意なのか善意なのか、それを選ぶのはアナタなのだ。



イラスト：村山章



村山章(映画ライター)

サエない映画ライターです。だって、
応援する映画がこぞって売れないん
だもの。

**無料版は
ここまで!!**

他、レビュー、中島映画クロスレビュー、
原作との比較分析など、盛りだくさんの
内容を擁した有料版は¥300で発売中！

販売ページへ